



浜家連 ニュース4月号

第296号
2025年4月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836
URL <https://hamakaren.jp/>

神奈川県「精神科医療の意見箱」について

副理事長 倉澤政江

神奈川県は八王子の滝山病院での患者虐待事件を受け、県内の精神病院の実態を調べるため2024年1月25日～3月22日まで「精神科医療の意見箱」を設置し、当事者、家族、職員から（既に退院、退職を含め）意見を募集しました。「意見箱」には372件の声が寄せられましたが、県は5月に数字集計を発表し「緊急対応が必要となる具体的な情報はありません」と結論づけました。



私が参加している横浜精神科福祉を良くする会（通称：よせふくの会）の定例会で「調査結果が公開されないのはおかしい、実態を知りたい」との声が多く上がり、情報公開を求めることになりました。11月22日によせふくの会として、がん疾病対策課精神保健医療担当課に「行政文書公開請求書」と「要請書」を提出し受理されました。その後、有志14名が記者会見に臨みました。記者会見では当事者、家族、支援者、ボランティアが夫々の立場で精神科医療への思いを各報道機関に訴えることができ、緊張しましたが貴重な経験でした。

1ヵ月後の12月13日に「意見箱」の一部開示を受け県精神医療担当課と交渉の場を持ちました。県側は「皆さんのお話を聞くだけは聞きます」という姿勢を最後まで崩さず、行政として精神科病院の現状を何とかしたいという熱意は感じられませんでした。課長は「意見箱の声は施策に反映したい、身体拘束にも取り組んでいく」と明言しましたので引き続き県の施策を注視していきたいと思えます。

一部開示された意見箱の回答は「非公開を前提に募集した」を盾に著しく黒塗りや*** *が多いものでしたが、その見にくい資料を精神科医・越智祥太先生が分析し纏めてくださいました。

開示されたわずかな意見の中に今の精神科医療の課題が映し出されています。

*入院期間について何の説明も無く入院費が気になる *入浴が制限されていることへの不満（多い） *拘束されることへの疑問 *薬の副作用で便秘になり強制的に浣腸される苦痛 *保護室でモニターに見張られながら排泄や着替えが丸見えになる等プライバシーも尊厳も無く緊張した生活を送っていることがわかります。*入院中の治療内容の説明や治療方針が明かされず不安だった、との声もありました。特に気になったのは退院後の日常生活の項目です。「入院中の記憶がフラッシュバックして辛い」「暴行されたことがよみがえり狂いそうになる」「隔離室に入れられたことがトラウマになっている」などの声です。治療の為に入院が結果として心に傷を残し、医療不信や人間不信になり、治療中断にも繋がりがねず、人権が守られているのか甚だ疑問に思えます。

最近問題になっている八戸「みちのく記念病院」精神科病棟での殺人事件の加害者は、「身体拘束が嫌で事件を起こせば病院から出られると考えた」と動機を語っています。病院は事件の隠蔽を図り、内部関係者の通報により事件が明るみになったとのこと。

令和6年4月より精神科病院における虐待通報が義務化となり通報窓口が設置され、入院者訪問支援事業も始まるとのことです。少しでも精神科病院の風通しが良くなることを期待しています。閉ざされた扉の中にいると人間の感覚は鈍くなります。コロナ禍での七尾病院、神出病院や滝山病院での患者虐待事件がその事を物語っています。

精神の病気だから仕方ないとどこかで思っていないか、今の制度を当たり前とっていないか、これからも「おかしい」と言い続けることができるか、と自分自身に問いかけ続けていきたいです。

※横浜精神科福祉を良くする会（よせふくの会）は2011年9月に発足。毎月第1金曜日に横浜市健康福祉総合センター会議室にて定例会を開催（時間18：30～21：00）

精神保健医療福祉に関心のある方はどなたでもどうぞ（代表：山口）

Aブロック家族学習会が行われました。

昨年10月から今年1月にかけてAブロックの家族学習会が開催されました。その報告が届いています。



家族による家族学習会に参加して すずらん会 T.M

昨年10月から今年1月にかけて、5回の学習会に参加させて頂き有難うございました。学習会担当者の方々は、午前中から集まって、参加者の話し合いや学びが充実したものとなるように様々ご尽力して下さいました。お蔭様で安心して気持ちを出せる場、学べる場となり。毎回楽しみに参加させて頂きました。

それぞれ年令も状態も違いますが、皆さまのお話から、役に立つ情報や方法を知ることができたり、「どうしたらいいの?」という疑問に対しても一緒に考えて、提案・共感して下さり、同志のような仲間ができ、心強い気持ちになりました。

自分の思いを口に出すことで、心に少し隙間ができ、又。皆様も大変なんだなあ〜と分かる事で、私のエネルギーになりました。

テキストはとても読みやすく分りやすいので、今後も参考書として、時々読むつもりです。また機会があれば喜んで参加させていただきます。

浜家連の動き



横浜市精神保健福祉ガイド』（第13版）の発行 ガイド編集委員会 安富 英世

2年前の2023年3月、浜家連の『横浜市精神保健福祉ガイド』（第11版）を、印刷物（書籍）として浜家連全会員に配付いたしました。

『精神保健福祉ガイド』は、社会資源を掲載することから、その内容は変化を余儀なくされます。

そこで、昨年の第12版以降、印刷物の制作は行わず、浜家連ホームページでの掲載とさせていただきます。

会員におかれましては、ホームページに是非アクセスしていただき、必要な箇所は、画面表示またはダウンロード等でご覧ください。

URLは、以下の通りです。

<https://hamakaren.jp/publics/index/19/>

今回第13版の発行にあたり、各区の福祉保健センター高齢・障害支援課のご担当者様に、生活教室の実施状況やボランティア活動を中心に、情報最新化を図るご便宜を図っていただきました。厚くお礼申し上げます。

なお、記載内容に誤りがある場合は、浜家連までお知らせくださるようご協力をお願いします。

2025年3月



単会からのたより

娘を110番し

白梅会 さつきねこ

7月初め別居している娘から SOS がはいった。娘は無職で障害年金と親からの僅かな仕送りで生活している。自分が病気になったのは、親のせいだと文句をいい、いつも怒りや不安を電話で訴えてくる。近隣の物音や話し声が単にうるさいというだけでなく、自分への脅威と感じ、おびえ恐怖にとらわれている。怖さがあまりにも切実なので、私もほだされ、泊まりにいかうかと提案、娘のアパートに2泊した。娘は人がいると安心だとほっとした様子を見せ、私を歓迎してくれた。



私が泊まり安心したことで、娘は今度は実家に戻りたいといいだした。夫にも相談し、いい機会だから、片付け業者に依頼して荷物を整理しようということになった。

娘は連日矢の催促。下見に娘が2回実家にきたが、壁が汚い、散らかっているなど、目に付いたことをかたっぱしから大声で文句ばかり言う、興奮して壁を殴ったりする。家にいる間怒鳴りっぱなしで帰っていった。アパートに泊まったときと別人のような興奮状態である。連日の片付け作業もあって、私は疲れ切ってしまった。こんな娘と暮らせるのか正直不安になった。

7月下旬、私が娘のアパートの不動産屋に連絡をとったことを伝えると、娘が突然怒りだした。「自分に確認をせずに連絡するとはけしからん、腹がたった、これからタクシーで殴りに行くから覚悟しろ！」(娘は不動産業者ともトラブルがあり、連絡はすべて母親にまかすと言っていた)。

実家にきたときの娘の様子を思い出し、私は震え上がってしまった。しばらく迷ったけれど慌てて家をでて、110番して、警官の到着を待った。

警官は二人で来て、家に入って娘と話をした。警官はそれぞれから事情を聞き、書類を作成し、サインを求めた。落ち着いた娘をアパートまで送ってくれた。私は当日は娘と顔をあわすことはなかった。娘が帰ってから見ると、室内は娘に荒らされてぐちゃぐちゃになっていた。

その夜は、ほっとした気持ちもあるが、110番なんてとんでもないことをしてしまった、娘とこれっきりになるのではと不安で眠れなかった。

翌々日くらいに、娘から電話があった。普段とちがっていやに冷静な声で、「殴るといっただけで、殴ったことはないのに、どうして110番したんだ、殴られるようなことをしたという自覚はないのか？」などと怒りの電話があった。警察官には、このようなことが度重なると措置入院になると脅されたそうである。抑えた穏やかな口調なのが、かえって怖かった。

「親と一緒に暮らす気はなかった。安全な建物が欲しかっただけだ」と娘の本音が出た。これで娘とはお別れだなと思ったら、思わず涙が出た。

その後、家族会で110番したことを話したら、「うちの子供も110番したが、今は一緒に暮らしているよ」と先輩から慰めてもらった。嬉しかった。家族会の有難味が身にしみた。

家族会では、子供のことで、困ったことや悩みが気兼ねなく自由に話せる。先輩の経験も聴け、アドバイスもある。講師を呼んでの講演会や学習会では、目から鱗の感激がある。高森先生のお話は何回聴いてもなにか発見がある。活動は仲間内に留まらず、地域ケアプラザと連携して、福祉関係者に統合失調症について理解を深めてもらおうという企画もある。

なお、110番してから1ヶ月位過ぎると、娘は相変わらず、不安や恐怖に駆られると電話してくる。無職では家を借りることができないと、就労支援センターに通っている。

【編集後記】先日精神部会が開催されました。この部会には薬物依存の「ひまわり家族会」アルコール依存の「横浜断酒新生会」そして浜家連が参加します。

先日の部会では様々な話のなか、疾患は違うけれども「孤独や孤立した状況になると必ず病状は悪化する」とのことで意見が一致しました。一人暮らしの当事者にとっては病院での治療の他に、相談できる友達やどんなコミュニティを持っているのか、このようなことも暮らしを支えていく上で、重要な要素になると思います。

2025年度が始まりました。要望書や市民メンタルヘルス講座等を通して、精神障害者の生活が少しでも良くなるような活動ができればと思います (事務局 中居)